

第 18 回ふれあいトーク（2013 年から 10 年後の高岡について）会議記録

- 1、日 時 平成 25 年 8 月 21 日（水） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 高岡商工ビル 502 会議室
- 3、出席者 高岡青年団体コミュニティ会議
(高岡伝統産業青年会、高岡青年会議所、高岡商工会議所青年部)
市長、農業水産課長、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1)市長挨拶
 - (2)出席者紹介
 - (3)意見交換

意見交換

参加者

- ・ 高岡伝統産業青年会で行っているクラブツーリズムの 10 年後について話をする。クラブツーリズムを始めて 5 年がたった。これまで、多くの人数を受け入れできないことと、参加者が観光だけで終わることが課題であった。このことから、高岡のものづくりを巡ってもらう滞留型の取り組みができないか考え、今、ものづくりインターンシップ制度を提案している。10 月 5 日に美大生を対象にツーリズムを行う。伝統産業青年会の構成を、伝統産業からものづくりに枠を広げている。県外からものづくりを目的に移住してくる人が増えており、こういった人を増やしていきたい。現在 CREP4（クレップフォー）を立ち上げた松原先生に相談し、短期ではなく 1 週間高岡に滞在しものづくりを知ってもらうことを考えている。ホテルを利用すると滞在費用がかかるため、空家を活用し、ゲストハウス、シェアハウスでの利用ができないかと考えている。
- ・ 就職を控えている人を対象に、1 週間高岡で過ごしてもらい、高岡のものづくりを知ってもらい、ものづくりに携わる仕事がしたい人に、高岡で就職してもらうことを目指している。ものづくりインターンシップを利用した人が高岡に就職して移住することで、10 年後の高岡の活性化につながる。

参加者

- ・ 伝統産業は、バブル期まで右肩上がりであったが、その後は右肩下がり危機感を抱いている。職人の高齢化や、後継者不足により、技術が途絶える心配があり、10 年後に向けて技術の継承と後継者育成が課題である。外部から伝統産業に興味のある人を受け入れる体制を、業界、行政が協力して作っていかねばならないと考えている。業界の構造として問屋制度がある。10 年後はさらに情報伝達と流通の手段が発達してくることから、問屋と工場は仕事を受注するため各々情報発信方法を工夫する努力していくことが大切になる。ものづくりのまちとして新しい技術と確かな手仕事を融合させていくことが大切と考えている。

参加者

- 青少年育成事業を行っている。子どもたちに思いやりと感謝の心を持ってもらうことを目的に、子どもたちを対象に二上まなび交流館や五箇山などでの体験学習事業を実施している。子どもたちが食育学習や実践学習で得た気づきを通し、子どもたちに感謝する心を学んでもらう。子どもたちの取り組みが、家庭、社会、地域に伝播し、さらに地域が青少年育成に取り組んでいくことを期待している。

参加者

- 地域活性化事業として、瑞龍寺や金屋のライトアップといった地域の宝に光を当てる事業や、福岡町で子どもを預かる寺子屋事業を行っている。そのほか、子供たちに光を当てることを目的として、教育課程におけるダンスを活用した取り組みや、まちづくりに関するフォーラムの開催などを通し市民の当事者意識を広げる取り組みを行っている。新幹線開業を控え、今後も地域活性化を企業、地域と協力しながら行い、また、将来のまちづくりについて市民の当事者意識を広げる取り組みをしていきたい。

参加者

- 高岡は、食べ物でなかなか人が呼べない。高岡単独ではなく、周りの地域と協力して、食で人を呼べないかと考え、富山県内で高岡、入善、小矢部、魚津の4団体5色のラーメンを作って売りだしている。高岡は、銅器、古城公園、県内シェア70%のハウレンソウの色である「緑」をテーマに、高岡のハウレンソウペーストとトッピングを使って高岡グリーンラーメンを作った。様々なイベントに出展し、好評を得ているが、イベントへの交通費などの出費がかさむ点が悩みである。他市では、PRのためのイベントに出た際は補助があると聞いている。高岡でも行ってもらえると嬉しい。
- お土産としての高岡グリーンラーメンの商品化を目指している。新幹線開業後の高岡のお土産として今年中には高岡グリーンラーメンを商品化して、将来的には高岡グリーンラーメンを求めに新幹線に乗って高岡に来てもらえるようにしたい。また、高岡グリーンラーメンだけでなく、富山に来れば、5色のラーメンが食べられるとして、PRしていきたい。

参加者

- 新幹線が開業することを、PRしている。全列車が高岡に停まり、交流人口が増えるとの見込みもあるが、現実には新幹線駅周辺が廃れていく都市もあることから、高岡が廃れる可能性もある。高岡駅を利用してもらえるよう、議論していく場を継続して作っていきたい。

参加者

- 商工会議所青年部には様々な業種の方がいるので今後も高岡の商工業の発展と自己研さんを念頭に10年後もさらに未来を考える機会を設けていきたい。

市長

- 温泉地の復活や浅草の復活の話などを例にあげると、施設整備が古くなると減価償

却が終わり、日銭を稼ぐだけでやっていけるが、それでは将来の展望が開けず、活性化には借金しながら働く必要がある、という話を聞く。後継者である皆さん方は、頑張って発展型の挑戦を続けており素晴らしい。終着点を決めてしまうとなかなか進めないが、まず取り組みを始め、その後どんどん発展させていく発展系のやり方で挑戦をつづけてほしい。

- 職人を目指す人にシェアハウスで過ごしてもらい、高岡での滞在を通じて、将来の定住に繋げていくという、伝統産業青年会のインターンシップの取り組みは、ストーリーと夢があって素晴らしい。富山大学芸術文化学部などの学生たちは独自のセンスやビジョンをもっている学生が多く、高岡の雰囲気の中で創作活動を行う良さを感じてもらいたい。
- デザイナー、建築家、プロデューサーなどの組織に属さない、いわゆる自由業の割合が多いほど、地域の発展の可能性があるとの調査結果もある。ぜひ組織の中で埋没せず、自らの名前で仕事をし、また、そういった人たちを取り込んでほしい。
- 青年会議所による子どもたちを育てる取り組みのように、地域の連帯を利用しながら地域福祉を進めていくことは大切と考える。子どもたちが地域の連帯を意識していくことが必要で、子どもたちが感謝の気持ちを学ぶ場を作っていくことは大切なことである。
- ダンスはコミュニケーションツールになる。人の存在を意識したりコミュニケーションの役に立つものであり、ぜひ広めてほしい。
- 商工会議所青年部からは、食のイベントへの参加と高岡グリーンラーメンに関する取り組みの話があった。市でできる協力の方法については考えていきたい。高岡はラーメン店が多く、実は激戦地で、集積率の高いところであり、応援していきたい。
- 新幹線開業を1年半後に控え、開業に向けて準備しているが、首都圏や様々な地域に出向き、顔の見えるプロモーションを行っていくことで、高岡を知らせたい。開業半年前には、新幹線ツアーを企画する時期であるので、特に力を入れていく。皆さんと行政が一緒になって新幹線開業後について考え、進めていきたい。
- 商工業の発展について、高岡市では新産業創造プラットフォームを作っている。企業同士をマッチングするため企業を訪問したり、支援体制づくりや情報収集を行っている。技術開発支援などのツールは、市・県・国と様々あるが、市の役割は、ツールに辿りつけるようにすることであり、また、市も独自の支援ツールを持っているので、商品化や、技術開発など、新しい分野へ挑戦される際に、気軽に相談し、有効活用してもらいたい。

以上